

③メール道：【気の進まない誘いへの対処法】

気の進まない飲み会などに誘われ、断りたいとき「すみません、今日はちょっと・・・」という断り方では理由がはっきり分からないので「なんで？」と押し切られる可能性があります。「すみません、その日は無理です」という断り方も「無理」という拒絶が、誘った相手に良い印象を持たれません。このようなときは「せっかくお誘いいただいたのに、すでに予定があり残念です」あるいは「今日はあいにく先約があり、参加できず残念です」という返事の仕方があります。ポイントは、参加したいけれど事情があり、参加できない意を伝えることです。「せっかく」「あいにく」という言葉を添え「残念です」で締めくくると相手に受け入れられやすくなります。「参加したくない」が本音でも、それをストレートに相手にぶつけてしまうと「せっかく誘ったのに・・・」と反感を買うこととなります。「参加しない」という拒否の姿勢を前面に出すのではなく「(本当は参加したいけれど)参加できない」という形で返答すれば、角が立ちません。言い方ひとつ書き方ひとつで印象が変わるため、断るときも自分の気持ちのままに直球勝負するより、相手の受けとめ方を考慮した変化球で対応するとよいでしょう。目上の相手から誘われる飲み会などで、忙しくてそれどころじゃないというのが本音の場合も、忙しいことを理由にするのはできれば避けたいものです。

＜角の立たない断り方＞

- × 今日はちょっと・・・
- せっかくお誘いいただいたのに、すでに予定があり残念です。
- × 無理です。
- 今日はあいにく先約があり、参加できず申し訳ないです。次回はぜひ参加したいので、お声がけください。

このようなときは「あいにく今、立て込んでおりますので、落ち着いたらこちらからお声がけいたします」という返答の仕方があります。まず「あいにく」を使って、相手の誘いに今は応えることができない状況を伝え「時間の余裕ができたなら改めてこちらから声をかけます」と前向きな姿勢で返答すれば相手も気を悪くしません。その場で拒否・拒絶するとそこで関係も途切れますが、一旦は相手の意向を受けとめ、次の機会にこちらからアクションを起こす旨を伝えれば相手も安心できます。このようにバツサリ切り捨てて終わりにせず、先に可能性を残す断り方が理想的でしょう。

④メール道：【入力ミスをしやすい「一字違いの言葉」に要注意！】

読みが同じで表記が異なる言葉は、文字を入力する際にうっかり間違いやすいものです。特に一字しか違わないと見過ごしてしまうこともあります。そこで今回は、入力の際に気を付けたい言葉をピックアップして紹介します。「はいふ」には「配布」と「配付」があります。配布は、広く行き渡るように配ること。配付は、確実に相手に届くように配ること。配布の「布」は、広く行き渡らせるという意味があり、配付の「付」には、物を手渡すという意味があります。誰にでも届くようにばらまくのが「配布」、特定の相手に手渡すのが「配付」というイメージでしょうか。ただ、新聞表記や法令用語としては「配布」に統一されています。通常は「配布」を用いますが、あえて意味の違いを強調したい場合は「配付」を使うこともあります。「きてい」には「規定」と「規程」があります。どちらも「守らなければならないこと」という意味です。物事のやり方や内容などを決めた条文として定めることであり、その定められたひとつひとつの約束ごとを指します。

＜要注意の「一字違いの言葉」＞

- 「配布」と「配付」
 - 街頭でチラシを配布する
 - 参加者に資料を配付する
- 「規定」と「規程」
 - 規定の書式・規定料金
 - 服務規程・国家公務員倫理規程
- 「確立」と「確率」
 - 体制の確立
 - 成功する確率は80%

新聞表記では「規定」に統一されていますが、官公庁などの内部執務に関するものには「規程」が使われています。さらに同じ読みの言葉に「既定」もあります。文字通りすでに決定していることで、反対語は「未定」です。「かくりつ」には「確立」と「確率」があります。確立は、制度・組織・計画・思想などをしっかりと打ち立て定めること。確率は、ある現象が起こる可能性の度合いを意味します。確立は、物事の基礎となることを十分用意したうえで、しっかりしたものに作り上げることです。対して確率は、ある現象が起こる確実性の大きさのことなので、確実さを計算し数字として表わせる場合に多く用います。文字を入力するときに「確立」と「確率」を取り違えたまま入力してしまう場面が多く見受けられます。文字通り打ち立てるのが「確立」、率とかパーセンテージで可能性の度合いを示すのが「確率」と覚えておくといいかもしれませんね。

編集後記



明けましておめでとうございます。今年は、亥年です。正確に言うと「己亥年」となるそうです。今の状態を維持できるように守りに徹したほうが良い年とされています。イノシのように猪突猛進していきたい気持ちですが、しっかりと周りを確認しながら、周囲のものを壊さない程度に猛進していきたいと思います。平成も残すところ4カ月となりました。5月には年号が変わりますね。次の時代も皆様にとってより良い時代になりますよう、お手伝いさせていただきます。今年も宜しくお願い致します。(上岡・白井)